

令和8年度四街道市民大学講座 講義録

2026年8月4日(火曜日)第3回講座

『殿塚古墳・姫塚古墳の発掘と埴輪群像』

講師：芝山町立芝山古墳・はにわ博物館館長 奥住 淳 氏

奥住先生は財団法人山武郡市文化財センター調査研究員として遺跡の発掘に従事されたのち芝山町教育委員会で文化財行政及び「芝山町史」編さんを担当し、現在は芝山町立芝山古墳・はにわ博物館館長として様々な魅力ある企画・展示に取り組まれています。

講義では、冒頭に芝山町のプロフィールをご紹介頂きましたが、成田空港拡張工事に伴う移転地域の文化財保護に尽力されております。芝山町は、埴輪の町として広く知られていますが、昭和31年に殿塚古墳・姫塚古墳の発掘調査が行われ大量の人物や動物の埴輪が出土したのがそのきっかけであり、現在でも100基を超える古墳が残っているそうです。

列をなして出土した埴輪は、馬子と馬や全国的にも珍しい長身で山高帽をかぶり髭を蓄えた武人、首長や巫女、琴を弾く人などで、祭祀を再現したものと考えられるとの説明でした。

「芝山古墳・はにわ博物館」で当時の豪族の威容に間近で触れてみたいと思いました。

(作成：四街道市民大学運営委員)

